

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
北海道芸術デザイン専門学校		昭和51年5月1日	根上 和也	〒 001-0024 (住所) 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人 美専学園		昭和62年12月4日	増田 涼平	〒 001-0024 (住所) 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	専門課程	環境デザイン科(クラフトデザイン専攻)	平成7(1995)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	環境デザイン学科(クラフトデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【資格・検定】在学中: 貴金属装身具製作技能士3級(国家検定)、建築CAD検定3級、色彩士検定、IllustratorならびにPhotoshopクリエイター能力認定試験、商業施設士補、ガス溶接講習。卒業と同時に受験資格を取得するもの: 家具製作(家具手加工作業)技能士2級(国家検定)、貴金属装身具製作技能士2級(国家検定) 【学修成果】第51回北海道陶芸展 学生の部最優秀賞・第14回道展U-21 準大賞、北海道知事賞、札幌市長賞、読売新聞支社長賞 【中退率】0%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,400 単位時間 — 単位	30 単位時間 — 単位	2,370 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
100 人	33 人	0 人	0 %				
就職等の状況	■卒業者数(G)		14 人				
	■就職希望者数(D)		12 人				
	■就職者数(E)		12 人				
	■地元就職者数(F)		9 人				
	■就職率(E/D)		100 %				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		75 %				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/G)		86 %				
	■進学者数		0 人				
	■その他						
	その他: 2人(印刷業 クリエイター業)						
(令和5年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		家具製造、特注家具制作、建築CADオペレーター、陶芸教室アシスタント等					
(令和5年度卒業生)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://bisen-g.ac.jp/course/environment/craft/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数						2,400 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数						240 単位時間
	うち必修授業時数						2,400 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						240 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						0 単位時間
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数						- 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						- 単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数						- 単位
	うち必修授業時数						- 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						- 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						- 単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						- 単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人
	計					1 人	
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐野 公康	株式会社デービス 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
佐藤 正人	北海道イラストレーターズクラブα 名誉会長	同上	①
堀川 敦史	(株)サイクロンゼロ 開発部マネージャー	同上	③
大内 利章	(株)自然農園 代表取締役社長	同上	③
伊藤 千織	一般社団法人 北海道デザイン協議会 会長	同上	①
薄木 健友	(株)花佳 代表取締役	同上	③
赤坂 真一郎	(株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ級建築士事務所 代表取締役	同上	③
根上 和也	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	—
高橋 美絵	同 教務部長・マルチメディアデザイン学科長	同上	—
飯塚 哉子	同 学務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	—
桂 充子	同 環境デザイン学科長	同上	—
稲葉 未紗	就職課主任	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月29日 16:00～18:00

第2回 令和6年1月26日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。
・学科全体では、建築・インテリア・製造業どれも現場の人材の高齢化が著しい。まだまだ人手不足である。就活にはプラスになるだろう。専門分野を望む学生の募集にはメディアの露出は大切、他専攻も含め、何かしらの身近な媒体でのインパクトが特に重要である。業界で活躍している卒業生やデザイナーを見せて憧れを持ってもらうことも重要。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。
- ・学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
陶芸演習Ⅰ	演習を通して、自らの研究として釉薬の調合や焼成方法などを調整し、成形から焼成まで制作を行う。屋外型の窯の演習にも取り組む。	(有)円山陶房
鑄造演習Ⅰ	ロストワックス、キャスト技法を用いた加工法によるアクセサリーの制作に取り組む。	BURNING JOHN
プランニング	企画を立案し、コンセプトメイキングからプランニング、表現手法までトータル的な習得を目指す。実社会での制作側の立場理解も目指す。	Atelier Monogoto一級建築事務所
工芸研究(貴金属加工演習)・鑄造演習Ⅲ	地金から成形する、彫金技法の基礎技能を、課題演習を通して学生に指導する。2年次には展示会に出品して、学外の評価も得る。	(有)秀工房
環境デザイン	環境デザインの領域は幅広く、アート、デザイン、エコロジー、テクノロジー等を包含している。立体制作には、デザイン力や造形力のみならず、ものの見方、素材背景の知識が必要とされる。活動を通して与えられた問題、あるいは自ら見つけた問題を解決して行くことで、「作る」という推進力を養うことが目的である。	札幌まるやま自然学校

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。 ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。 ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 「シラカバを北海道の持続可能な地域資源-伐倒見学会-」	連携企業等: 木と暮らしの工房(東川町)
期間: 令和5年6月18日	対象: 一般・学生
内容: NPO法人もりねっと_旭川市、一般社団法人白樺プロジェクト_旭川市 による森の環境づくり研修会	
研修名: 「可能性は自分でつくれ」	連携企業等: 北海道大学・大光電機株式会社
期間: 令和5年8月25日	対象: 建築関係者・一般・学生
内容: 建築家 安藤忠雄氏 講演会	
研修名: 「野外美術館をつくったころ」	連携企業等: 本郷新記念札幌彫刻美術館
期間: 令和5年11月25日	対象: 美術、工芸関係者・デザイン関係者・一般・学生
内容: 酒井忠康氏 講演会	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 令和5年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間: 令和5年12月21日	対象: 教育関係者
内容: 「未来の北海道を創る～令和の働き方・学び方を考える」新保元康氏(認定NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 講演	
研修名: 教職員研修「学生対応に関する勉強会」	連携企業等: リタリコワークス・相談室カククシカジカ
期間: 令和5年9月22日	対象: 教職員
内容: ①「リタリコワークス宮下氏による「学生面談対応について」②相談室カククシカジカ渡辺氏による「自殺リスクのある学生の対応について」	
研修名: 「学生対応に関する勉強会」フィードバック	連携企業等: リタリコワークス・相談室カククシカジカ
期間: 令和5年12月27日	対象: 教職員
内容: 9月の勉強会の振り返り	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 第10回 木育・森育楽会 オンライン	連携企業等: 木づかい子育てネットワーク
期間: 令和6年秋季	対象: 林業関係者・建築、デザイン関係者・学生
内容: 全国木育、林業、環境、教育、保育に関する事例報告	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間: 令和6年12月ごろ	対象: 教育関係者
内容: 教育・人材育成にかかわる内容	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか
	各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか
	教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか
	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
	資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか
	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導体制を確保しているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか
	退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか
	防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行なわれているか
	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
	財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11) 国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

4名中3名の委員を入れ替え、新たな視点・それぞれの立ち位置から、本校が行った学校評価(自己評価)結果及び今後の改善に向けての方策等について意見をいただいた。今後も、歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため教育課程や学生指導について改善を図り、また職業実践専門課程校としての責務を果たすべく、連携する企業との情報共有の充実や教育資源の積極的な活用に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
國松 明日香	星槎国際大学	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業関係者
松田 香織	(有)I.B.DESIGN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業関係者
篠宮 利恵子	デザイナー	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域有識者
櫻井 俊二	(有)I.B.DESIGN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和6年6月14日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8) 学校の財務	事業報告書、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

公表時期: 令和6年6月20日

授業科目等の概要

文化教養分野専門課程			環境デザイン学科(クラフトデザイン専攻)		令和6年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		工芸概論	伝統工芸の基礎知識、技法を学び、演習課題を通して継承されている手仕事の技術を学ぶ。	1前	60	2		○		○			○	
2	○		クラフトデザイン概論	クラフトデザインの歴史、素材背景を木工、金工、貴金属工芸、陶芸の分野において学ぶ。また生活工芸品という人と物との関わり方の理解を深める。	1後	30	1		○		○				○
3	○		DTP演習Ⅰ	Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトの基礎操作を習得。各クリエイター能力試験取得を目指す。	1後	30	1		○		○			○	
4	○		DTP演習Ⅱ	Illustrator、Photoshopのグラフィックソフトを使い、画像やテキストを編集する能力を身につけ、各クリエイター能力試験取得を目指す。	2前	30	1		○		○			○	
5	○		CAD演習	三面図の作図から3Dモデルまで、CADソフトによる家具デザイン、システム理論、操作方法を学ぶ。CAD検定取得を目指す。	2前	60	2		○		○				○
6	○		デッサン	描画技法の基礎授業。対象の観察にはじまり、形態や空間の把握と描写力を身につけ、質感、量感、動静の表現力を養う。	1前	60	2		○		○				○
7	○		造形デザイン	平面構成、立体構成、造形の基礎知識を演習課題を通して身につける。	1前	30	1		○		○				○
8	○		製図デザイン	JISに基づく製図法を用いて三面図の作図と各種透視図法を学び、さらに図面から実制作まで一連に行うことで具現化への理解を深める。	1前	60	2		○		○				○
9	○		立体表現	立体造形の基礎授業。可塑剤を使いながら三次元の演習課題に取り組み、表現の拡張と、それに伴う要件の解決を考えることが目的。	1後	30	1		○		○				○
10	○		木工基礎演習	木材の基礎知識、木工技術の基礎技法、道具の使い方を演習課題を通して学ぶ。	1前	60	2		○		○				○
11	○		陶芸基礎演習	陶土、釉薬、焼成方法の基礎知識、陶芸の基礎技法、道具の使い方を学ぶ。	1前	60	2		○		○				○

12	○		鑄造基礎演習	銀を使って、アクセサリー基礎演習課題制作。ロストワックス技法の習得を目指す。	1前	60	2		○	○	○							
13	○		金属加工基礎演習	金属の知識、加工技術を学ぶ。切削、ジョイントを主体に道具の使い方を演習課題を通して学ぶ。	1前	60	2		○	○	○							
14	○		木工演習Ⅰ	ツールや箱の課題制作を行い、木材の加工、組み立て方、仕上げの流れを学び、段階的に技術向上を目指す。	1後	30	1		○	○	○							
15	○		陶芸演習Ⅰ	ろくろの基礎技法を茶碗やカップなどの課題制作を通して身につける。	1後	30	1		○	○	○							
16	○		金工演習Ⅰ	金属の工芸技法である、鍛金-たんきん-を課題制作で学ぶ。	1後	30	1		○	○	○							
17	○		鑄造演習Ⅰ	基礎演習に引き続き、ロストワックス技法での演習課題を行う。基本形から装身具としての機能を持ったオリジナルデザインを制作。	1後	30	1		○	○	○							
18	○		陶芸演習Ⅱ	工芸的な技法を取り入れながら、様々な土や、釉薬を使うことによって性質理解と技術向上を目指す。	1後	30	1		○	○	○							
19	○		金工演習Ⅱ	様々な金属を使い表札を制作。その加工技法で、性質理解と技術向上を目指す。	1後	30	1		○	○	○							
20	○		工芸研究 (貴金属加工演習・木工演習Ⅱ)	宝飾、彫金技法の基礎を学ぶ。バーナーによるロー付けを主体に、課題制作では技術理解をすすめる。知識として貴金属(金やプラチナ、銀)、宝石を学ぶ/多様な木材の知識、加工技術を基に演習としてツールボックス制作を行う。	1後	30	1		○	○	○							
21	○		プランニング	デザイン製品を実制作するまでの過程を学ぶ。企画立案から素材研究、製品の試作、完成品の提出、プレゼンテーションを行う。	1前	60	2		○	○	○							
22	○		プレゼンテーションⅠ	情報発信のスキルを向上する授業。他者に向けて伝える力、伝わる表現方法を実践的に学ぶ。	1後	30	1		○	○	○							
23	○		プレゼンテーションⅡ	テーマコンセプトを明確にし、三面図や完成予想図をともなった資料作りから発表までを行い、技術向上を目指す。また就職に向けてのポートフォリオ制作。	2前	60	2		○	○	○							

24	○		プロジェクト計画	新しいことに挑戦し価値を生み出す制作において、目的・目標計画と、実行計画を立てる。工程の記録をファイリング、試作と振り返り、製作へのフィードバックといった、商品や製品の開発におけるワークフローを身につける。	2後	60	2		○	○	○						
25	○		色彩演習	デザイン構成要素、色彩について基礎的な理論を学ぶとともに、色彩検定3級取得を目指す。	1後	30	1		○	○	○						
26	○		環境デザイン	社会や人との関わり合いを学び、コミュニケーション能力を高める総合学習。ものづくりの背景理解として地域と資源活用、暮らしと生活について、課題研究、成果発表を行う。	1後	30	1		○	○	○	○	○				
27	○		空間表現	作品制作において、要素、素材、技法による造形的可能性を広げる目標を持つ。演習課題での造形物制作では、イメージを伝達できる力をさらに高める。	2前	60	2		○	○	○						
28	○		専門技術演習 A (演習 III)	木工：家具を作る大型機械の実践的な使用、治具制作、旋盤加工を学ぶ/陶芸：登り窯焼成を学ぶため、作品制作から薪で焚く窯の性質を学び、焼成作業まで一連の制作過程の理解を深める/鑄造(企業連携)：宝飾に要する成形や石留技法といった彫金の加工方法を学ぶ。/金工：銅、アルミニウム、鉄、それぞれの加工方法を広く学ぶ。					○	○	○	○	○				
29	○		専門技術演習 B (演習 IV)	木工：特殊電動工具などの実践的な使用、治具制作、接ぎ手の技法を学ぶ/陶芸：組み物、注器などの制作に取り組み、造形技法を学ぶ。酸化、還元などの焼成方法も学ぶ。/鑄造：ロストワックス製法を中心に、異素材を組み合わせたオリジナル装飾品制作。/金工：象嵌、空目金といった、伝統的な金属加工の技法を学ぶ。					○	○	○	○	○				
30	○		専門技術演習 C (演習 V)	木工：伝統的な生活工芸品を制作。手道具から特殊電動工具などの実践的な使用、治具制作、組み立てに関する接ぎ手の技法を学ぶ。/鑄造：ロストワックス製法を中心に、石留リング、セット物の制作といった、実践的な課題制作に取り組む。/金工：鉄を素材にした課題制作で、アーク溶接、TIG溶接といった機械加工の技術を学ぶ。陶芸：屋外型の窯の焼成を実践的に学ぶ。	2前	360	12		○	○	○	○	○				
31	○		造形演習 (I・II)	可塑剤、実材を組み合わせた課題制作を通して、気づきや発見を掘り下げる研究授業。 レーザー加工機とアプリ操作、3Dプリンタとアプリ操作を学びデータ出力の造形加工を身につける。					○	○	○	○	○				

